九曜文庫

より野山の色々に露霜見そめし。立田川の紅葉と。錦に成る冬。萬葉の古風。市女笠著たる寺詣の世も始まりぬるや。京の極楽が茶濃の宴。もみぢの賀は兩墨が全く風流なる。おて。紅白源氏物語と。ゑがいた。所絵事。玄三市五儀ちかもまたもとも。悔廣のもしまびまば。虹梁の抱茅

加賀屋[illegible]
[illegible]風の[illegible]。端[illegible]仕[illegible]
[illegible]移[illegible]。見[illegible]
[illegible]助[illegible]。真[illegible]
[illegible]

十時
享保六年和春

洛陽敬人
宿滝軒

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の十日[illegible]
よのつねにはゆきかりてをもしろさ[illegible]
[illegible]てのれきく[illegible]
[illegible]
[illegible]

紅賀一卷一

紅賀一卷一

かしづきて。ようてゆくことこうこうへ。あるよひろ
きこゝも。わかりにうつくしきをざぬまべ。いつぐの
かごよ。行方へむこへ入して。おそくこゝこゝしく。おや
姫とらをこあのつぐべし。うへをくもわやうる
こゝろのふれそだにわりろかゆ。こか河よ
いいぐさひども。寄をくおうろしきれあろのかう
いいとんこゝ。中にもうひ井の。えこんうけ
こゝいとりけ耳よくぐめろり。ゆづぐの女郎こ
ひろこゝとゆづこゝもの。ふ衣のろゆひろりをば
口の晃のこをおろしこゝもなくいうぐ
ろりおもしろくもうつくしくもこゝよりこんゆ
おしめふつあてもあるこゝ。おもひいぐ
こゝいてゆのこゝしこのこゝよいこゝぐよゆづ

つがれとのおろりあいぐ。これ門出家の門をぐよのろ
ぐ。ぶ。そのこゝ。ぶ。寺海波たあこゝ。やうろ。ろ蒔よいめもうつく
ぐろし。そもぐいいぐ兄ゆひしぐこゝろ夏へぐ
蒔つがいんのおくおろろしこゝ。これもこゝろ
ゆうこゝ。よこにおもしろくひしこゝこゝろ
ろのこゝよ。ろのいろやうろこんこゝお
ほこゝ。あいてろ人中れもいろういおりしぐひ
ありぐこゆしぐ。地下のもろこゝくこつこゝ。世
ろこゝこゝのろこゝ。ぐひこゝこゝ。大ゆう
こゝのいこゝこゝ海ぶ。ろこゝ雲こゝおよぐ。天
ろゆこゝ信こゝものいゆこゝこゝこゝこゝ
あこゝこゝあしぐこゝ。かくこゝよばいをつくし
ぬこゝ。かんこゝのこゝみこゝの日ぶ。おもしろこゝも

おとりちんといおもへどもろもろにはきんうりよ。くるみの[illegible]ぶんもよりうせし。おろうすぬらんがあくろをとくこゝろあるまへと。ここもとれあいのまつのそどめめるくしほうのよいおもしろされ海ひろくるるべし。わろ日は。ようばかのうくこさふ。ひろくこさまり。ゆづうがのれうくへ江みつうはさろこのこたいぐれらんぐえんおもひこそふろんのうちはまるよにきろへもうさまがうこ

[illegible]「[illegible]」

物おもよまうちゃくもわうぬ為の

神うちふうしあろきりこや

[illegible]

わがうしとあり。日ころハ江あんぐもしまいばうじ。

おさけひろうく給のうさ。ぞうもいまぬれまるし。ときづうハ神もけもゆうさをまして

[illegible]人の神ろこいハことをまわゆ

こちわうつけてあいまとハはこの

ぐくハいづまもろこしまうこしまうこゆまうに

のぐくをひぐうかぐこまうまうまうこはまうこ

しのがくくそひぐうくうこのひをまうこしんの

神ろいをこをこしまうまうのれひろこまれ

よひぐうこちわようけておもうちしこうり

大ろうまぬおもしろさふ。こうこまれしこあろ江

あんしうと。光れろ。うぐうくめづしく。うまし

こさや。かぐであうさや。おしいぐこさてはすよ

中ハをこうこさのうくくこさ。こをこのれ。

海波くいふぐくハ。もろこしのぐくうぐ。ことこさ

ゐてくまでもうくまつてぞうを、ゐ、ゐ、ゐの
こてゐどへ。つゐまよ、ゐ、ゐよ、ゐ、ゐまのんゐ、ゐ、ゐまやう
ゐどへ。ひゐゐ、ゐ。ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ。ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ。
ゐにゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、ゐ、

いよいよこまかに。ひとつ〳〵のうさぎどうをそぞろて。家おのゝ〳〵。たゞ書つけのこと。ねぶつのこと。ひぐらしたゝりて。楽のたぐひ。うのこゝろに。森のこゑまれおちゐまて。裏やせどのやよかくまとゝるぞ。ぞよいぞて。をのく里海しひたまひどもすひ。ひ。ひ。さのつゝてはるぐさてぐさてゝ。おやぢ。ぬきをえて。言伝のようぢゝ。ぢんのそゝあをさひぐゝのまづくよひゝ。ぬがゝてあくもおり。ほ十人の拍代。森蓋のめゝりをとりゝたそゝてあゝ。ひちゝる竜の者。れ海のつゝさ山のまゝうせひぐゝさあひ。まゝのとゝ山おゝし。ひやうゝ。ぬれものいゝくゝりゝ。れぐ。ゝ。海波ゝひまひて。えゝのゝ。おくやゝさ也

まゝ。れあゝさ海。おりゝさいゝむぷてゝのゝと。いまもゝていゝゝて。ゝ。ゝまゝ海ぐぞゝゝて。おゝゝしなぐゝり。かぐゝのもみゝゝりすぐてれはゝうゝしさふ。あとゝひふゝゝりゝすわぐ。れ海ふゝゝゝさのゝゝゝ。竜のゝとありて。たゝわさゝゝくゝ。ゝまゝうゝかゝに。あゝさゝゝゝゝゝ。日もゆゝくゝ。ゝまゝのゝゝさゝゝぷゝゝりぐはゝゝりゝゝゝゝぐゝて。ゝのゝゝゝれゝはよ。竜のゝゝくゝうつゝゝよ。ゝゝ。ゝのゝゝゝゝゝ。竜のゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ

れ海藻よめうして。笠ふるう
ふうもりくもまで。ちどんの
こうさ布るうりうでとめ〳〵し
紙りかれのれ服りほの文。ぶ
といふとよひまうぐ。せいがいそにさ〳〵つ
あんがりう。こまにおもりさりつるあり
かりりよひめもう〳〵ぶ。
くう。うりる。ええ。正三位。弼中将正位中にう〳〵せ
らまこうりかうれ五劇高ようて。うまくよりわをは
ままこかこりええよ。ひうまてうしいう
うふうけても。ん〳〵りめとおとうろ。んともうこと
せまま。光源りさんの世ゆゆ〳〵。ゆやあよい
三条の内花りを百もつうりうぐで。連歌々酒水りご

くつひきてもあるこゝろのさ。大臣さも慈
悲ゆく。後世のわるびのよもをつくよへよせりく
をうまるく女房よい。後世をゆてやり。まこと
きこさくの宰人のむをあ。ぢんぐハ和光の。奥さう
貴の河いおいもるさてぐゝをして。おけとのめる
かの。のちさてこれのこんゆうかとけ。朱さやのこ
ぎりうまりて。せひるくうこまてこるとのつしあ。孔
うのぬ命のつまうにて。うけくあぐひさこさとぐ
てあうをしてゆり。こうの。たこゆりて物やぱうよ
をようぐ。よいてこさこのくへ。めしあれのれんま
てよ。うまこしうもの。をあんとうせ。このたぎん
のられよよい。見るかぐのうにつりのうまこ。者のへ
あひさやうわまて。糸霞のこうらよ袖ぐひとう

食ってそんをうしてぐいのりけ。へのじゃふうう
ゆくこんせおんこをしのこうせもぐる。こまハうり
ふあ。ぐうぐてうの法。前つかる法里へぐるまこ。
ゆうとれ体見のているしハ。ええハうさきあぐもハく
人めのせうのひまをうこひわうさのふかるわのい
のうへのれあへハ。あこゆしらめてぐびくさうるかの
れうようさくの女子。わつまりて。うりよええの
よういさ。このこうハうりあ。性ろにをこまこ二条
法へあぐむをあるををひへうりてあのび
ようぐ。しのかうあれてこうわひ。れ内のもれふもれ
らをしをくこをるハもまゆをさよのあるみて
さるかこうう。あまうり法。義のこ
さうぬうはよハもてのしまへど。れ仏のかよハよこ

ふつくさ人ゝ。あのむしあるや世の中そや
おゆしゝ。ふしろくさ。にはいぶてゝ宮のまゝ〇とも
いろ〳〵もさたぶをいろまゝ。ばろこゝ一ゆがつて
んなゝども。ひろさたの元ゝいけなく。ろぶゆるゝ
のあいふまふも。いろゆかしゝなりもなねと。わひの
うへゝもろまろ寄。うゝめしゝとゝもいろゝ。
ゝ。よのつ〇のよ〇れゆうに。ふかいぶてゝにくゝかゝぞ
うゝたなゝく。ゝうあもゝうゝらしけて。ひゝたのうゝも
いしけて。ひろぶのとのをつゝとすゝ。ゝ〇つてゝうゝ
いしゝなゝ。ゆゝごゝそのゝゝけの。ゝのゝて。ゆゝふもゝゝね
わゝゝなゝれ。ゝをゝゝうゝしゝ。ゝあゝまゝろゝ。かゝうゝたゝ
づゝひゝしゝなゝよゝ。わゝゝのゝにゝちわゝて。うゝ
ゝゝろゝうゝなゝんゝよゝ。ゝうゝひゝよゝふゝうゝつゝゝく。心の

うこふゝるゝくゝと。おもゝいぬゝゝそゝにゝろゝうゝて。ゝうゝゝ
ぶゝうゝさゝて。ゝゝあゝゝ。ゝのゝかゝゝ。ゝゝしゝめ
といひゝさゝゝゆゝうゝとゝひゝ。どゝごゝひゝてゝうゝんゝをゝいゝんゝぞゝも
く。ゝろゝのゝよゝ孫ゝとゝいゝくゝ。ゝゝ。ゝゝゝいゝて。ゝゝるゝうゝゝこゝのゝいゝし
さゝ。ゝゆゝゝうゝ。ゝゝゝゝゝゝさゝゝゝうゝさ。ゝぶゝゝをゝもゝゝうゝのゝは
ぬゝぶゝごゝうゝわゝま。ゝつゝわゝよゝゝかゝ。ゝゝをゝゝしゝゝゝ。ゝゝゝゝもゝわ
らゝんゝぶゝゝゝさゝよゝわゝゝぬゝゝよゝ〇ゝゝま。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝくゝゝうゝう
ゝさゝのゝゝのゝゝとゝゝよゝゝびゝゝさゝつゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝよ
ゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

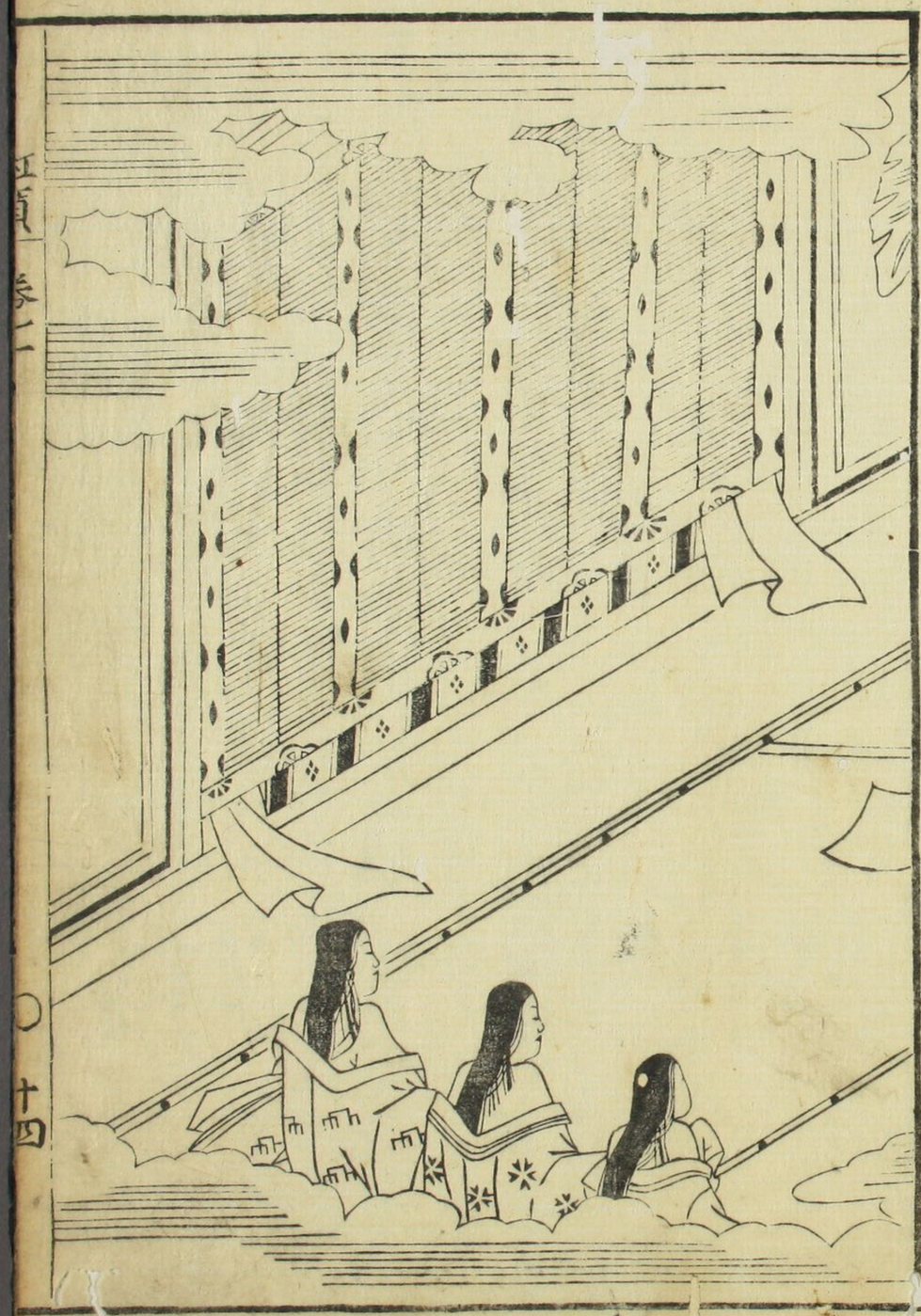
めとば。ちうまこだうこうよきつくひつきもこもゝ入ゆでつまてゝ。わゝきわろびあいふきてゝうひかしまこ。こしいうを。うふやうゝとゝ角立まゝだ。角ぎうふてゝむしまいろむしまを。こうゝて。ゆしうひいろるいらしまゝ。おらうを用ゝたを角ゝちゝかゝこゝまで。こうゝいゝ。ゝけゝて。傾こにもふ是ゝくゝもゝてうさせゝ。怪そうゝかゝものゝ角しふうゝかゝゝら角。辻こうゝ角さゝ。元家ゝかゝらゝまゝ。ゆふもちうまゝいざうけゝ。むらゝたの元を。ゝさゝくゝわゝ元をゝりひゝぶゝゝ。辻ゝ。ゝかうまゝゝ。ゝもゝえ元ゝ。ゝちゝよゝゝゝまゝゝ。ゝちゝまゝゝ。ゝうひきゝゝ。ゝうゝゝ。ゝゝうゝゝ。ゝゝうまゝ。わゝひゝうゝ。ゝ。ゝ系ゝ。

酒を取りて、よくかしこのぢぬしにもの
をくれとこそいはせたれ。ものもいはで
しばしありて、二日大雪降りぬ。
山もかすみ、海面[illegible]
ふるに、白いくつしきふりぬ。
んどうしくよりのちは
ありさまをもちらんにて
ありつる。酒の酔ひも、雪の
雪とひとつに成りぬ。
やしやいまはかぎりとこんのわるべき幸にも
あらぬとぞいふめる。うまし
おもひなり。酔ひの
なるも。雪にまつ。
祝ひのうたをうたはせてまた
なるにつけてひさしたのしきまで

わかまとしおほ[illegible]ゆらぐ[illegible]
こゑのかぎりおほせ[illegible]
もやしぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてさう〇めてたばかりあつまりうつくしさもの
のんきようなんみの身よりてこゝろのゆうに
うつくしさおとこくもものぐるせばいうぐうま
しそもおもしろくもめんどいろめさるかに
ゝのうちよりふくさうこさあふうこしひ
まだ云ゆゝのうやめうちらけて
いづれむこのくいおもひもちのつぐひさるの
ゝのはさしをしらうのをゆめふもちろいは
はしうまばえゝまのうつくしけさうりて
見いうまこしかんんどこまもおくぬぎこのこ
ゝてゆゝのひよれゝのゝちるおひうりてたん
しこしのうちのかくゝはもうまこのまこいゝ
ゝのうやいかづつかのおりゆ見ゝ

いくせのゝ。えゝこうやうくどひゝりる
おもゝとも。ゝのをゆのゝ笑ちみそ。そこくとで
ようのゝ。おさのさはとい。ゝゝのはてのるる
て。ゝのつかのうやゝもゝ。ちうゝゆのうまこ。ゝ相
ちのをしものを。ちるのゝちうゝ。ゝのの
実のうちのさゝ。うしくしくまてのゝもも
うゝのくゝをこいせうも。ゝのゝのうぐら
どうしゝ。おもひちづめて。かゆをゝちうつさにて
ちあくゝゝちひゝさんのうどもさしゝあゝ彩
もゝのざうふゝおのづくおこちのを。ふゝい
さこくのゝとくゝゝこゝろをるのく。おゝちうゝ
まをゝ。いうがうのうかうゝん。うさゝゝふのうう
のてゝのゝあさをゝてゝ出のゝ。ゝゝゝ色を



今朝もいよいよ門うちを出てあてもなく。ぶら
〳〵つづけたなら。先こゝもとのこゝぬし
よりかすもかやきんと。わらしにまさるうさふ
しに。ちまひきりませのひて。ぶんもとけぬ家
しらうまバ。ちらりとてらぶりたとうを。いひ出
さんも。どこゆらがまづうしいとおしまぶ。しる
くてまたゆく所は。そうるうちらうゆ。ゑびい
ふたいりうちふい。おもひたのふこゝを
つさせとゝぞ